

演題番号：

演題名：牛の心臓、頸部および内腸骨リンパ節に認められた病変について

発表者氏名：中山智之 金谷安利 長谷川嘉子

発表者所属：滋賀県食肉衛生検査所

1. はじめに：と畜検査において、牛の体内に乳頭腫様腫瘤を認めたと報告する。
2. 材料：平成25年10月21日にと畜された牛（県外産・ホルスタイン種・牝・99ヶ月齢）
3. 生体所見：股関節脱臼（申告病名）で病畜として搬入され、搬入時は伏臥で、四肢関節の腫脹および軽度消瘦を認めた。
4. 肉眼所見：頸筋および頸骨表面に2mm～5cm大の乳頭腫様腫瘤を多数認めた。

心臓は、心外膜炎と心のう内嚢胞を認め、その嚢胞胞膜に1～3mm大の乳頭腫様腫瘤を多数認めた。

左内腸骨リンパ節は、鶏卵大に腫大し、割面に1～3mm大の乳頭腫様腫瘤を多数認めた。

その他の所見として、肺気腫、肝炎、胃・小腸・大腸の脆弱化、妊娠子宮（約60cm）、乳房リンパ節の野球ボール大腫大、股関節脱臼、両側大腿出血性炎、頭部左側および臀部左側の筋肉に壊死を認めた。
5. 病理組織所見：頸筋および頸骨の腫瘤の被膜は単層扁平上皮で、実質は非上皮性の線維性間質成分と微小血管で構成され、類上皮細胞で包まれ、内部に結合線維とリンパ球を含む結節性病変（肉芽腫）を複数個認めた。

心のう内の嚢胞は、被膜が重層扁平上皮で、実質はリンパ球、好酸球、ヘモジデリン貪食マクロファージにより構成されており、類上皮細胞で包まれ、内部に結合線維とリンパ球を含む結節性病変を複数個認めた。

内腸骨リンパ節は実質内に、単層扁平細胞で包まれ、内部に繊維素、リンパ球、好酸球を含む不正形嚢胞を多数認めた。
7. 考察および診断：頸筋・頸骨の腫瘤は、棒状のものによる摩擦など、何らかの機械的刺激が頸部に反復して行われることにより生じた滑膜嚢腫と考える。

心のう内嚢胞の腫瘤は、心膜嚢腫と考える。その胞膜に発生した乳頭腫様腫瘤の組織像は頸部に生じた滑膜嚢腫に類似している。しかし、滑膜嚢腫と仮定した場合、心のう内嚢胞に反復して行われる機械的刺激として心臓の鼓動が挙げられるが、それが滑膜嚢腫を生じるほどの刺激かは疑問であり、診断名を検討中である。

内腸骨リンパ節実質内の小腫瘤は、病理組織像が前二者と異なっているため、別の原因があると考えている。こちらについても診断名を検討中である。